



国内最大手のペール缶。その中で、デザイン大、新たな用途提案を、基礎的なルールの見直し、ニケーションが重要。メーカー。生産能力は、を変更することで鋼材、続けていく」と話す。や、徹底した現場管理、悲観して動けなくなる月産約130万缶。の廃棄削減につながる。供給責任を果たすと、がすべての土台となるのではなく、前を向いて話したい。趣味はパール缶は安全性や、環境に配慮した「ラベ、同時に、より高品質な座石の銘は「悲観は、競技麻雀「Mリーグ」気密性、ハンドリング、エチレンの内装と鋼製、め、コンスタントな投資を実施している。足、反日感情が高まる2010年代、中国のSMAIテムとしてペールOPでは董事長を務め、缶にも商機があるので、た。「意見がぶつかる、は」と笑顔。時こそ、濃密なコミュ（山浦 なつき）

## 「ニッチマーケットトップ企業として成長」

4月1日付で社長に就任。「これまで厚板・薄板畑を歩んできたが、最終製品を手掛けるのは初」

### ジャパンペール 橋本 克典氏

として、「ニッチな業界のトップ企業としてプライドを持ち、さらなる成長を目指す」と抱負を語る。

ジャパンペール（本社・大阪市西区）は、環境が続いている。

用される。国内製造業など、高付加価値製品の製造能力減から石油の拡販に注力。24年度の製品の需要が減少、エンジンオイル向けもEV化の波を受けるなど、厳しいマーケットの製品開発や使用拡なことは「安全」。基

#### 略歴

橋本 克典氏（中国）董事長兼總經理、15年4月メタルワ

するITシステムの活用や全工場へのラベルプリンター展開、暑熱対策や省人化機器の導入なども行う。厚板・薄板などさまざまな製造現場を見てきた橋本氏は「当たり前のことではあるが、最も大切

# 新社長

